

目 次

1 研究の概要

2 研究の実際

【国語科「書くこと」】

第1学年（学習指導案・本時の考察・成果と課題）・・・国語1年－1 ～ 14

第3学年（学習指導案・本時の考察・成果と課題）・・・国語3年－1 ～ 8

第4学年（学習指導案・本時の考察・成果と課題）・・・国語4年－1 ～ 11

第6学年（学習指導案・本時の考察・成果と課題）・・・国語6年－1 ～ 10

【1人1台端末を活用した授業】

第2学年1組（学習指導案・本時の考察）・・・ICT－ 1 ～ 2

第2学年2組（学習指導案・本時の考察）・・・ICT－ 3 ～ 4

第5学年1組（学習指導案・本時の考察）・・・ICT－ 5 ～ 6

第5学年2組（学習指導案・本時の考察）・・・ICT－ 7 ～ 8

第6学年2組（学習指導案・本時の考察）・・・ICT－ 9 ～ 10

ひまわり5組（学習指導案・本時の考察）・・・ICT－11 ～ 12

ひまわり7組（学習指導案・本時の考察・成果と課題）・・・ICT－13 ～ 15

3 研究同人

研究の概要

(1) 研究主題

主体的・対話的な学習を通して、自分の考えを表現できる子どもの育成

～ユニバーサルデザイン化を目指した国語科の授業づくりと ICT のベストミックスを図る～

(2) 主題設定の理由

近年、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が激しく、予測困難な時代となってきている。急速な社会の変化の中で、一人一人の児童が自分のよさや可能性を認識できる自己肯定感を育むなど、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められ、学習指導要領では「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の3つの視点からの授業改善が推進されている。

本校では「元気いっぱい 笑顔かがやく 若葉っ子」を目指す子ども像とし、確かな学力を積み上げるために日頃から「考える」習慣をつけさせたり、「若葉授業」の共通実践を行ったりしている。令和2年度から「主体的な学び」、「対話的な学び」の視点を持ち、授業のUD化の手立てを工夫しながら、国語科「書くこと」の研究に取り組んだ。その結果、目的意識や相手意識をはっきりさせたり学習の見通しをもたせたりすることで学習意欲が高まり、主体的に書く活動に取り組む児童が多くなってきた。また、語彙力を高めるための言葉や児童が書いたワークシート等を視覚化・共有化したり教師モデル文を提示したりと「授業のUD化」の手立てを工夫したことで書く力が高まってきた。さらに、昨年度は指導過程の中で1人1台端末を活用してきた。タブレット端末を効果的に授業に仕組んで使い、児童の書く意欲を高めたり、児童の作品をリアルタイムで共有し推敲に役立てたりすることができ、書く力を高める一助となった。しかしながら、語彙力不足のために多様な表現ができない、限られた時間内で自分の考えや文章を書けない、といった課題も見られた。また、1人1台端末を指導過程の中で活用してきたが、より効果的な活用法と指導改善についてさらに探っていく必要があることを改めて実感した。

本年度は佐賀県教育委員会より「1人1台端末を活用した授業改善研究指定」を受けた。そこで、これまで取り組んできた国語科「書くこと」の研究を継続して行うとともに、1人1台端末を活用した研究にも取り組んでいく。昨年度までの研究の蓄積とICTのベストミックスを図りながら「主体的な学び」、「対話的な学び」、「授業のUD化」の視点から授業改善を進めていく。そして書く力を高め、自分の考えを表現できる児童を育成したいと考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究目標

国語科の学習において自分の考えを表現できる子どもを育てていくために、1人1台端末を活用し、書く力を高める効果的な指導方法の在り方を探る。

(4) 研究仮説

国語科の領域B「書くこと」授業において1人1台端末を活用し「主体的な学び」、「対話的な学び」の視点から授業改善を行い、児童全員が「分かる」、「できる」ように授業のUD化の手立てを工夫していけば、書く力が高まり自分の考えを表現する力を身につけることができるであろう。

(5) 研究内容

- ア 主体的に学ぶための手立て……………学習意欲をもたせる工夫、学習の見通しをもたせ、自分で課題設定ができる手立ての在り方。
- イ 対話的な学び(友達タイム)の工夫… 発達段階・学習過程に応じた友達タイムの工夫、これまでの研究をいかした手立てを深める。
- ウ 授業のUD化を目指す……………焦点化・視覚化・共有化を意識した授業作りを行い、児童全員が「分かる」「できる」授業にするための手立ての在り方。
- エ 1人1台端末の活用……………これまでの研究の蓄積とICTのベストミックスを図る。

(6) 研究組織

- ア 全体会……………全職員で研究協議会を行い、必要に応じて講師を招聘し、研究を深める。
- イ 研究推進委員会……………3部会の1つである「確かな学び部」に研究推進委員会を置き、校長・教頭・確かな学び部員で構成し、主に研究の方向や方法について協議し、実践的研究のための計画立案・連絡調整を行う。
- ウ 学年部会……………低学年・中学年・高学年・特別支援学級の学級担任及び級外で構成し、実践的研究を行い、本研究を検証する。
- エ 情報化推進部……………情報化推進リーダーと低学年・中学年・高学年・特別支援学級から各1名で構成し、1人1台端末の使い方や機能を中心に研修等を企画・運営する。

(7) 期待される研究の成果

- ア 児童が見通しをもって粘り強く学習に取り組めるようになり、自己の学習活動を振り返り、次の学習につなげられる主体的な学習ができるようになるであろう。
- イ 対話的な学習として学習過程に合った友達タイムを効果的に仕組みれば、児童が自分と他者の意見や考え方を比較したり、様々な考えに触れられるよさを認識したりし、考えを広げたり深めたりすることができるようになるであろう。
- ウ 授業のUD化を目指した「若葉授業(つかむ、考える、深める、まとめる)」を行い、手立てを工夫することで、どの児童も全員が分かりやすい授業となり、自分の考えを表現する力を身につけることができるであろう。

国語科

「書くこと」

第1学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 せつめいする 文しょうを かこう
 「じどう車ずかんを つくろう」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、前単元「じどう車くらべ」でそれぞれの自動車の説明の内容を読み取り、繰り返し出てくる接続語や文末表現に着目させて、読み取った事柄について比べ、図鑑づくりをすることを通して説明文の文型や構成を理解していくことをねらいとしている。教材文「じどう車くらべ」では、子どもたちにとって身近な自動車を取り上げ、自動車についての「しごと」と「つくり」の二つの問いに対して、説明が二つの段落に分かれて書かれていることで構成をとらえやすくなっている。また、「しごと」と「つくり」を関連付けるために、「そのために」という接続詞が使われており、さらに挿絵も詳しく丁寧に描かれ、理解を深めることを補っている。

自動車の図鑑づくりを通して、資料や図鑑からそれぞれの「しごと」と「つくり」についての情報を探して、写真と関連付けながら、興味・関心をもって自動車の特徴をとらえ説明することができる教材である。

本単元は第1学年及び第2学年「書くこと」の指導事項

【単元の関連と発展】

1年

「おおきくなった」

- ・対象を見て、気付いたことを簡単な語句で書く。
- くわしく かこう「しらせたいな、見せたいな」
- ・対象を詳しく観察し、特徴を説明する文章を書く。
- ・書いた文章を推敲する。

せつめいする 文しょうを よもう「じどう車くらべ」(読むこと)

- ・説明の順序に気を付けながら読む。

せつめいする 文しょうを かこう「じどう車ずかんを つくろう」

- ・説明の順序に気を付けて書く。

きいて しらせよう「ともだちのこと、しらせよう」

- ・友達の文章を読んで、思ったことや分かったことを伝える。

てがみを かこう「てがみで しらせよう」

- ・書いた後に、間違いがないか読み返す。

おもい出して かこう「いい こと いっぱい、1年生」

- ・出来事を分かりやすく書く。



2年

おもちゃの作り方をせつめいしよう

- ・順序が分かるように書く。

(2) 児童観

本学級の児童は、1学期に「おおきくなった」の学習で、対象を観察して気付いたことを簡単な語句を用いて書くことを学んだ。それを生かして、生活科であさがおの成長を観察カードに記録する活動を継続して続けてきた。初めの頃は色や形など見て分かったものを書き記していたが、回を重ねるごとに「手触り」や「匂い」など表現の幅が広がってきた。2学期には「しらせたいな 見せたいな」で、対象を詳しく観察し、特徴を説明する学習活動に取り組んだ。来年度入学予定の幼稚園生や保育園生に知らせるという目的意識を持つことで、意欲的に書く活動に取り組めるようにした。同じものを選んだ友達同士で気付いたことについて話し合う場を設け、何を書いてよいか分からず活動が進まない児童の助けになるようにした。完成した文を友達と読み合うことで、自分と違った表現に興味をもつ児童が増えてきた。しかし、書くことに苦手意識をもつ児童や文字や言葉の習得ができていない児童がおり、学力の差は大きい。

書く活動を日常化するために、2学期後半より連絡帳に一言日記を書くことや毎週末にその週にあった中心的な出来事を絵日記に書くことに取り組んでいる。一言日記は書くことの習慣化をねらいとし、絵日記には書いた後に振り返りを行うことで、分かりやすい文が書けるようになることをねらいとしている。スキルタイムでは、教科書の文を視写する活動を通して、正しい言葉使いや多様な表現を学ぶことをねらいとして取り組んでいる。

(3) 指導観

本単元の導入にあたっては、「書きたい。」という児童の気持ちを大切に、見通しや目標を分かりやすく設定し共有する。1組は今年度居留地交流を行っている聴覚特別支援学校の1年生に、2組は夏休みに転校した友達に、「クラスで作ったじどう車ずかんを読んでもらおう。」という相手意識をもたせる。また、分かりやすい「じどう車ずかん」を作成するためには、「しごと」と「つくり」を正しく書くことが大事であることを確認させる。作成に必要な資料は、1人1台端末や図鑑を利用して、自分が紹介したいと思う自動車について興味をもって情報を集められるようにする。

第二次では、友達タイムを設定して話し合い活動に取り組ませる。考えた「しごと」の中で、一番伝えたい仕事は何か、「しごと」に合った「つくり」はどれを選ぶと適切かを話し合っ決めてさせる。その際、1人1台端末で自動車の写真を共有して、どの部分の「つくり」について書いているのかを印で示して、ペアの話し合いの視点を明確に焦点化できるようにさせる。説明文を書く際には、前単元で学習した例文を参考にして、定型文・重要語句に着目させて、分かりやすく順序立てて書けるようにさせる。説明文の文字の表記に間違いがないかを確認したら、自動車の絵は1人1台端末の写真を見ながら描き完成させる。

第三次では、1人1台端末を利用して、完成した友達の「じどう車しょうかいカード」を読み合う活動を行う。Jamboard 機能を使うことで、それぞれのカードへの感想を共有化でき、友だちの文章のよさをより感じるができることと考える。受け取った自分への感想は、今後の活動への意欲付けにつなげたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。
- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	①「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。	①分かりやすい説明の仕方について興味をもち、説明の順序に気を付けながら、自分でも自動車図鑑を作ろうとしている。

4 単元の指導計画（全6時間）

次	時	主な学習活動	指導及び支援	評価規準
一	1	○「じどう車ずかん」の作り方を確かめ、学習の見通しをもつ。 ○自分が紹介したい自動車を選ぶ。	○どんなことを書いたらよいか、前単元の学習をもとに話し合わせる。 ○1人1台端末を使って、児童が興味をもちそうな自動車を提示する。	【主体的①】 「じどう車ずかん」の作り方を話し合うことを通して学習の見通しをもとうとしている。 (発言・記述)
二	2	○1人1台端末を使って、紹介したい自動車の「しごと」について調べる。 ○調べたことをもとに、自動車の「しごと」をワークシートに記入する。	○紹介したい自動車の「しごと」について考えさせる。 ○調べた「しごと」の中で、一番伝えたい「しごと」は何かを友だちと話し合わせる。	【知・技①】 「しごと」と「つくり」の関連を考えている。 (記述・発言) 【思・判・表①】 紹介したい自動車の情報を集め、「しごと」に合わせた「つくり」を選び、伝えたいことを明確にしている。(記述) 【思・判・表②】 調べたことをもとに、「しごと」と「つくり」の順で「じどう車しょうかいカード」を書いている。(記述)
	3 本 時	○1人1台端末を使って、紹介したい自動車の「つくり」を調べて、ワークシートに書き出す。 ○「しごと」にあった「つくり」を選ぶ。	○紹介したい自動車の「つくり」について考えさせる。 ○「しごと」に合った「つくり」を選んでいるか、友だちと話し合わせる。	
	4	○前時までの学習をもとに、「じどう車しょうかいカード」を書く。	○選んだ「しごと」と「つくり」を使って、順序に気を付けながら説明文を書かせる。	
	5	○説明文に間違いがないかを確認し、絵を描いて「じどう車しょうかいカード」を完成させる。	○誤字、脱字など文字の表記に間違いがないかも確かめさせる。 ○じどう車の絵は、1人1台端末の写真を見ながら描かせる。	
	6	○「じどう車しょうかいカード」を読んで感想を伝え合う。 ○学習を振り返り、友だちや自分の文章のよいところを見付けて書く。	○1人1台端末を利用して、感想を伝え合わせる。 ○伝えてもらった感想を振り返らせ、友だちや自分の文章のよさを見付けられるようにさせる。	
三	6	○「じどう車しょうかいカード」を読んで感想を伝え合う。 ○学習を振り返り、友だちや自分の文章のよいところを見付けて書く。	○1人1台端末を利用して、感想を伝え合わせる。 ○伝えてもらった感想を振り返らせ、友だちや自分の文章のよさを見付けられるようにさせる。	【思・判・表③】 「じどう車しょうかいカード」を読んで感想を伝え合うことを通して、友だちや自分の文章のよいところを見付けている。(発言・記述)

5 本時の学習（ 3／6 ）

(1) 目標

○紹介したい自動車の「つくり」を考えて、「しごと」に合った「つくり」を選ぶことができる。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 指導の手立て

○これまでの学習の例文や絵を提示し共有化することで、「しごと」にあった「つくり」を選ぶポイントに生かせるようにする。

○「友達タイム」を設け、1人1台端末を利用して話し合いの視点を焦点化して、どの「つくり」を選んだ方が読む人に分かりやすいかを話し合わせる。

(3) 展開

過程	学習活動	指導と支援 (○)・評価 (◆)
つ か む 考 え る ふ か め る ま と め る	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。	○前時までの学習内容を想起させ、本時の活動を明確にする。
	「しごと」にあった「つくり」をえらぼう。	
	2 自動車の「つくり」を考える。 ・タブレットを使い、自動車の写真から「つくり」を見つけて、「つくり」に印をつける。 ・見つけた「つくり」をワークシートに書き出す。	○これまでの学習の例文や絵を提示しながら、「しごと」に対しての「つくり」になっていることを確認する。 【共有化】 ○1人1台端末を使って、自動車の写真を机上で一人一人確認できることで、「つくり」を見付けやすいようにする。 【視覚化】
	3 「しごと」に合った「つくり」であるか考える。(個人で) 「しごと」に合った「つくり」を選ぶ。	○これまでの学習の例文や自動車の絵を示しながら「しごと」と「つくり」の関係を確認する。
	4 友達タイムを行う。 (ペアで) 意見を交流し、 「しごと」と「つくり」が合っているか確認する。	○「そのために」の言葉に注目したり、1人1台端末の写真を見たりして、正しいかどうか判断させる。
	(全体で) 意見を交流し、共有する。	◆「しごと」に合った「つくり」を考え、選ぶことができる。 【思考力・判断力・表現力等】(ワークシート) ○手立て:「しごと」の記述の後に、「そのために」の言葉で「つくり」が続くか確かめさせる。
	5 本時の振り返りをする。	○つくりをよく考えて選んだものを、電子黒板を使って紹介する。
	「しごと」にあった「つくり」をえらぶと、せつめいがわかりやすい。	
	6 次時の学習内容を知る。	○次時は「じどう車しょうかいカード」を書くことを確認する。

6 本時の考察

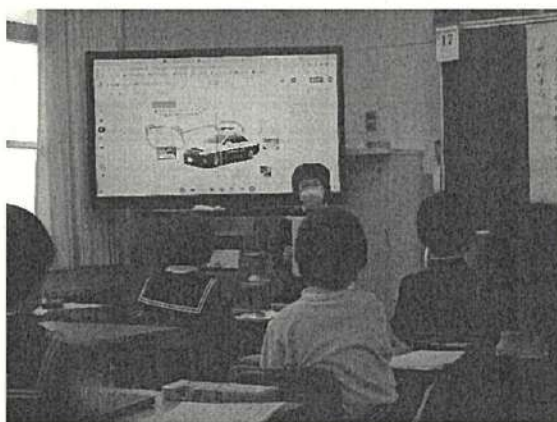
(主体的に学ぶための手立てについて)

- ・1人1台端末を使って児童に提供する資料において、元の資料では「つくり」が明記されているところを隠して提示することで、児童が主体的に資料を読み込み自ら「つくり」を見つけ出すことを

(友達タイムについて)

- (授業のUD化について)

-



① そのためにこの話をきかて
「し」とくりをきかす。

② タブレットでしとつ車を見せながら
えらんたつくり。どのぶぶんもを
きかす。

① だいたいこの①はしごのびた
火をけす
② しげおれた人をはるかに
をたすけだす

① だいたいこの①はしごのびた
火をけす
② しげおれた人をはるかに
をたすけだす

① だいたいこの①はしごのびた
火をけす
② しげおれた人をはるかに
をたすけだす

国語 1 年-5

5 本時の学習（ 3 / 6 ）

（1）目標

○紹介したい自動車の「つくり」を調べて、「しごと」に合った「つくり」を選ぶことができる。

【思考力・判断力・表現力等】

（2）指導の手立て

○これまでの学習の例文や資料(Jamboard)を提示し共有化することで、「しごと」にあった「つくり」を選ぶポイントに生かせるようにする。

○「友達タイム」を設け、1人1台端末を利用して資料(Jamboard)に印をつけた箇所を指し示しながら、どの「つくり」を選んだ方が読む人に分かりやすいかを話し合わせる。

（3）展開

過程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つかむ	1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。	○前時までの学習内容を想起させ、本時の活動を明確にする。
	「しごと」にあった「つくり」をえらぼう。	
考える	2 自動車の「つくり」を考える。 ①1人1台端末を使い、資料からどんな「つくり」があるか調べる。 ②「しごと」に合った「つくり」を見付け、印を付ける。 ③文と写真の「つくり」を線で結ぶ。 ④見付けた「つくり」をワークシートに書き出す。 ⑤「そのために」の言葉でつながるか確かめる。	○これまでの学習の例文や資料(Jamboard)を提示しながら、「しごと」に対しての「つくり」になっていることを確認する。 【共有化】 ○1人1台端末を使って、紹介したい自動車の資料を机上で一人一人確認できることで、「つくり」を見付けやすいようにする。 【視覚化】
ふかめる	3 友達タイムを行い、「しごと」に合った「つくり」であるか考える。(ペアで) 意見を交流し、「しごと」と「つくり」が合っているか話し合う。	○「そのために」の言葉でつながるか考えたり、1人1台端末の資料を見たりして、自分の選んだ「つくり」と比較させる。
	(全体で) 「しごと」と「つくり」を発表し、考えを共有する。	◆「しごと」に合った「つくり」を選び、書くことができる。 【思考力・判断力・表現力】(ワークシート) ○手立て:「しごと」の記述の後に、「そのために」の言葉で「つくり」が続くか確かめさせる。 ○「しごと」に合った「つくり」を選んでいる児童の資料を電子黒板に提示し、ペアで説明させる。

ま と め る	4 本時の振り返りをする。	○自分の頑張りや友達からのことばで参考になったことや 良かったことをワークシートに書かせる。
	5 次時の学習内容を知る。	○次時は「じどう車しょうかいカード」を書くことを確認する。

6 本時の考察

(主体的に学ぶための手立てについて)

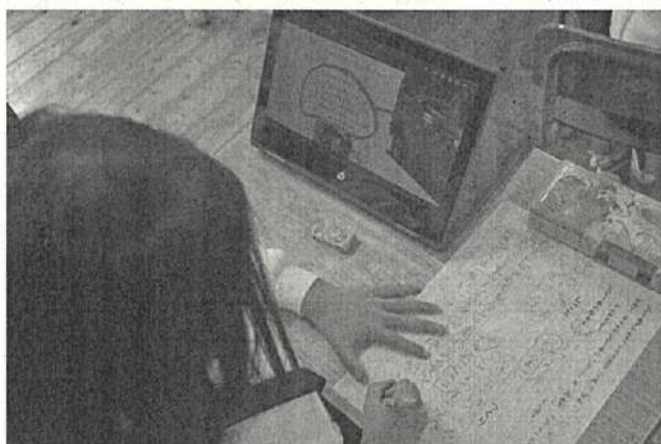
- ・ 1人1台端末を使って児童に提供する資料を、前回の授業では、「つくり」について文章化された部分を削除して提示したが、今回はその部分を提示したことで、児童全員が「しごと」に合った「つくり」を見付け出し、それが自動車のどの部分であるかまで考えることができた。それにより、その後の友達タイムや全体での発表に意欲的に臨むことができた。

(友達タイムについて)

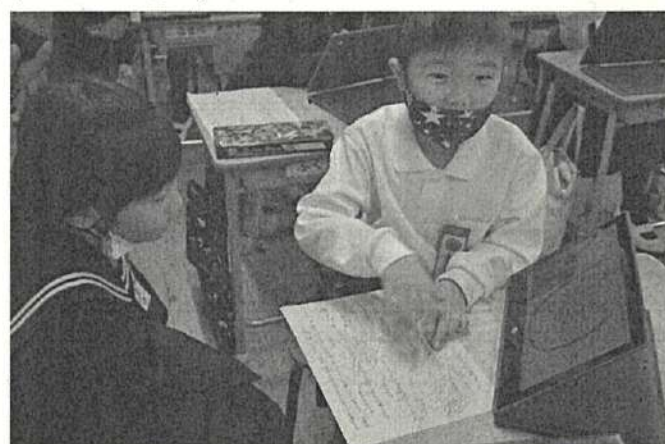
- ・ 前回の授業から変更して、同じ自動車を選んだ人と友達タイムをすることで、相手と自分との相違点を考えながら話し合うことができて有効であった。また、全体での発表をペアでの形態にしたことで、発表に対して安心感が生まれた。

(授業のUD化について)

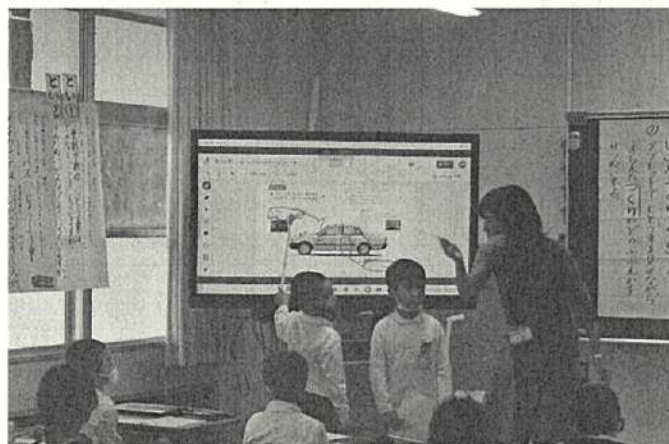
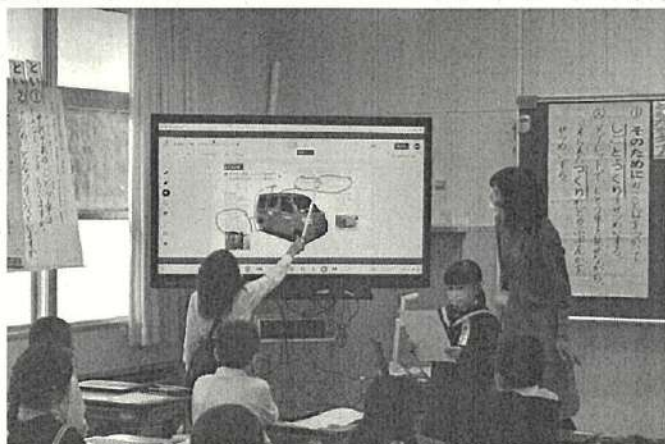
- ・ 1人1台端末を使って、選んだ「つくり」がどの部分かを丸で囲み指し示すことで、相手の選んだ「つくり」がどれかを視覚的に確認しながら、発表を聞くことができた。



【資料に印を付けてワークシートに記入する一人学習】



【1人1台端末を使って考えを話し合う友達タイム】



【電子黒板を使って考えを共有する全体発表】

②「じどう車ずかんをつくろう」 1時目のワークシート

① どう車をつくらう① くみ ばん めあて 「どう車をつくらん」 づくりの けいかくを たてよう。	② どう車をつくらう② と つくり ① どう車をつくらうかという文には、どんなことをかいたら よむ人がわかるでしょうか。	どう車 わけ（りゆう）	センこうきつ車 せうきつ車 せうきつ車 せうきつ車 ショベルカー ショベルカー ショベルカー ショベルカー キッチンカー キッチンカー キッチンカー キッチンカー	③ どう車をつくらう③ の 学しゅうのめあてを きめしよう。 いもつ車の「い」とつづり「い」をダブルで とらべてよむ人にわかりやすいかなとつくろう。
--	---	----------------	---	--

同じ自動車同士のペアで「友達タイム」ができるように、前回の授業からワークシートを1枚追加した。

紹介したい自動車を3つ選び、選んだ理由も記入するようにした。児童全員が、選んだ自動車の中から、「じどう車紹介カード」を作るようにしたことで、「知りたい」「調べたい」という意欲をもって、学習に取り組むことができた。

②本時「じどう車ずかんをつくろう」のワークシートとそれをもとに次時書いたじどう車紹介カード

[illegible]

じどう車ずかんをつくらう指示書

2/3

背景を設定 フレームを消去 Jamboard で開く

はしご車

● はしご車は、しごとに合わせて
どんなつくりを していますか？

はしご
はしごをのぼると、
どの12かいくらいまで
登れます。

はしごを
うごかすところ
はしごは、
はしごのよこにある
そりじゅうせきで
うごかします。

ささえる足
はしごをのぼしても
たおれないように、
足を出して ぶら下がります。

バスケット
しょうぼうしは、
バスケットにのって、
火をけしたり
人をたすけたりします。

【はしご車についての資料】

ゆうびん車

● ゆうびん車は、しごとに合わせて
どんなつくりを していますか？

赤い色の車体
ひと目で ゆうびん車と
わかるように 赤い色をしています。
目立つところに
ゆうびんマークが ついています。

スライドドア
ドアは、よこに引いて
大きくひらきます。
せまい場所や通るでも、
手紙やはがきの入ったふくろを
つみこみやすくなります。

ポストの近くに 車をとめやすいように、
小さいじどう車が つかわれています。
手紙やはがきを たくさんつむことができるように、
車の後ろが 広くあいています。

ゆうびんトラック
ゆうびんトラックは、
手紙やはがきを 遠くへ
とどけるために、
まちのゆうびんきょくから
大きなゆうびんきょくに
はこびます。

【自分が紹介したい自動車の「つくり」に印を付けた資料】

キッチンカー

キッチンカーは
どんなしごとをして
いますか？

ーりょうりをつくっているいろな
ばしょでうるしごとをしています。

キッチンカーは
しごとにあわせて
どんなつくりを
していますか？

ーらんてんせきのほかはりょうり
をするばしょになっていて、
水や火もつかうことができます。

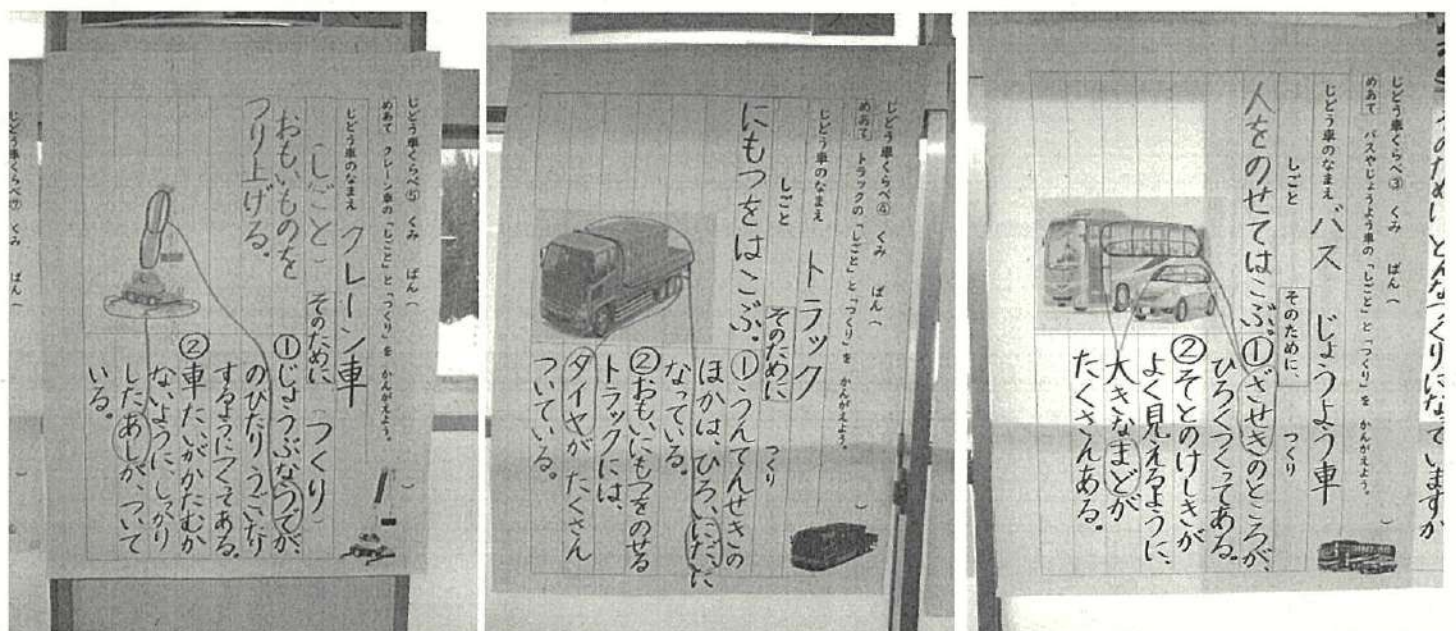
おきやくさんにたべものをわたし
やすいように、とびらが大きくひ
らきます。

【児童に提示した教師作成のオリジナル資料】

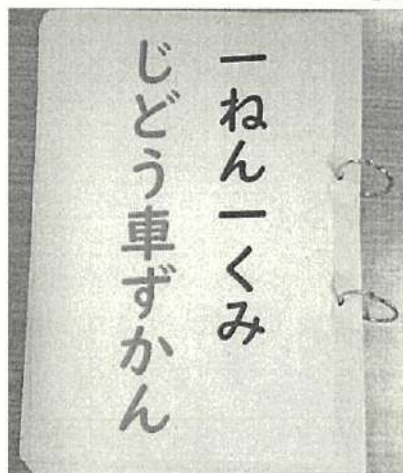
【教室掲示】



【児童が興味を抱くように身近に目にするじどう車の写真を掲示】



【学習の足跡がわかるように掲示した資料】



【完成した「じどう車ずかん」】

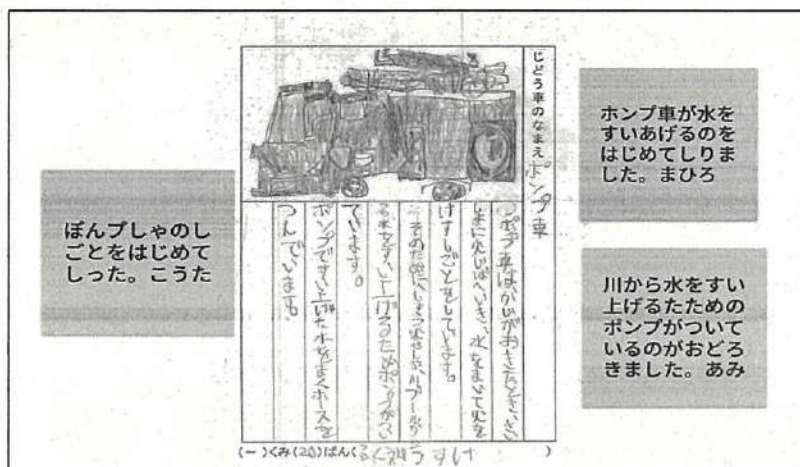


【興味が広がるように設置した本のコーナー】

8 研究の成果

(1) 単元について

- ・前単元の「じどう車くらべ」で「しごと」と「つくり」には関係があることを学び、児童は興味関心をもった。「もっといろいろな自動車について知りたい。」という思いに応えるために、1人1台端末を活用して資料の提供をすることで、自由に情報を得ることができて学びが広がった。
- ・友達タイムでは、1人1台端末を活用して、「つくり」の部分と説明文を丸で囲み、線で結ぶことで、視覚的に分かりやすく、お互いが共有できた。
- ・じどう車しょうかいカードの感想交流でも、1人1台端末を活用して感想の共有を行った。友達がどんな感想を書いたかを直ぐに読むことができ、自分の感想に生かしたり、比較したりしながら、感想の交流ができた。



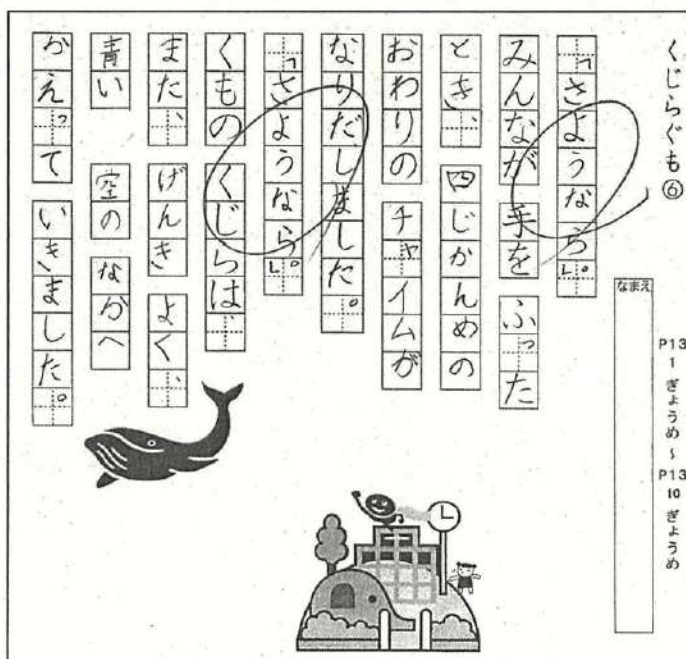
【グループでの感想交流】

(2) 年間を通して

- ・9月から毎週末の宿題で絵日記に取り組むことで、文章を書くことができるようになってきた。行事や授業などからテーマを与え、したことや言ったこと、聞いたこと、思ったこと、考えたことなどを振り返りながら書く方法を身に付け、少しずつ表現を工夫した文章が書けるようになってきた。また、2学期後半より連絡帳に一言日記を毎日書き始めたことで、書く活動が日常化され、文を書くことを苦手と感じている児童も書けるようになってきた。表現が豊かな日記や視点が面白い日記は、学級全体に紹介して共有し、次への意欲付けにもつながるようにしている。

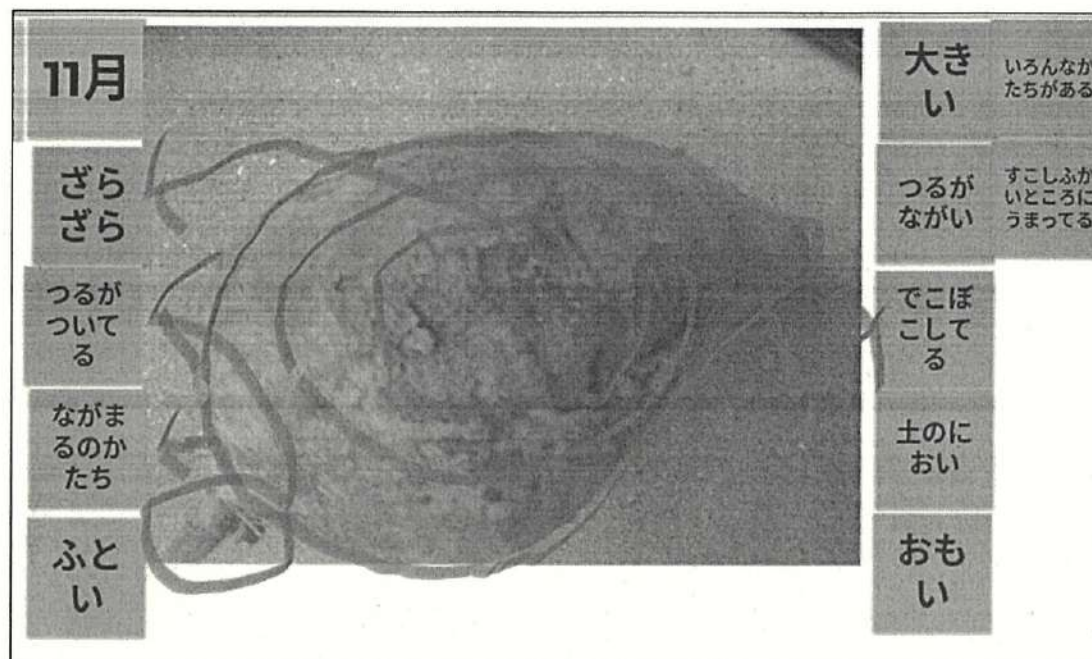


【繪日記】

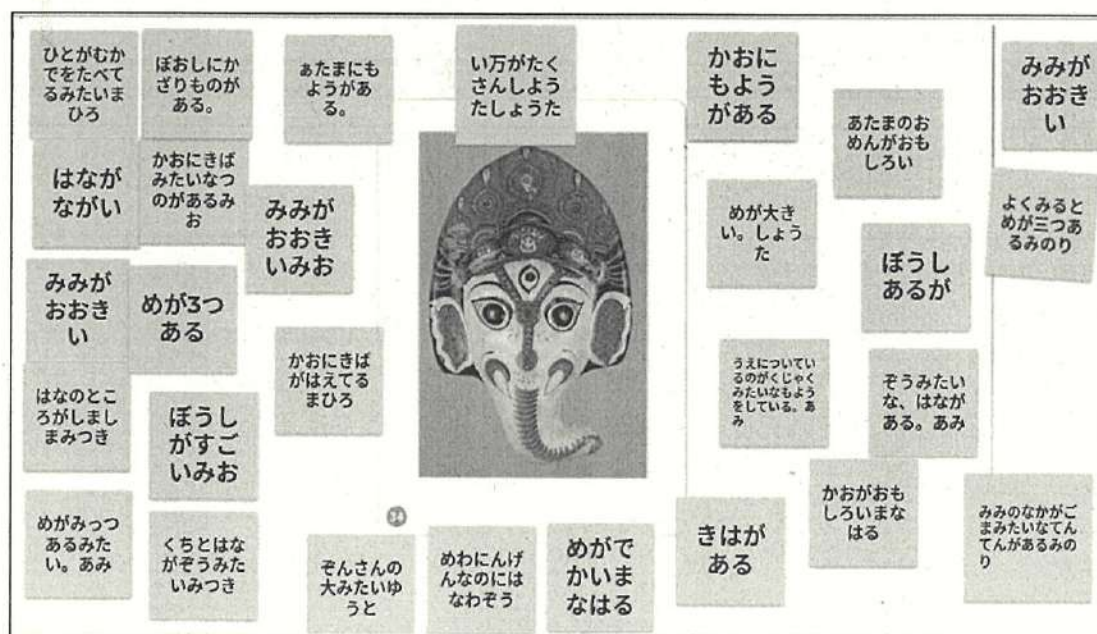


【スキルタイム】

- ・スキルタイムでは、教科書の文章の視写に取り組んだ。句読点の付け方や会話文にはかぎかっこを付けることなどを確認しながら、正確に視写することをめあてに取り組んだことで、文を書く時の決まりを意識して書けるようになってきた。
- ・毎週1時間1人1台端末の使い方を学んだことで、生活科の観察カードにアサガオの様子を写真で撮影したり、収穫したサツマイモについての気付きをJamboardに記録したりした。また、図画工作の鑑賞では、グループでJamboardに書き込むことで、感想の共有ができた。1人1台端末を活用することで、児童が意欲的に楽しく学ぶ様子が感じられる。



【サツマイモの観察】



【お面の感想をグループで共有】

9 今後の課題

- ・説明文の学習では、資料から必要な情報を読み取り、自分で説明文を書くという活動は児童にとって難しい。しかし、情報を取捨選択する力は、どの学年でも求められる大事な力である。そのため、1年生という学習のスタートの学年では、じっくり読み取る時間を設定して、丁寧に学習することが必要である、
- ・児童が様々な考えに触れたり、自分と友達の考えを比較したりしながら、考えを広げることができるように、児童の実態や学習過程を考慮しながら、「友達タイム」での話し合いの視点をはっきりさせていくことが必要である。
- ・授業の中で自分の考えをワークシートに書く活動や絵日記、手紙などを書く活動に継続して取り組むことで、苦手意識が小さくなっていくと考えられるので、今後とも日常的に書く活動を続けていくことが大切である。

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 きせつの言葉 「夏のくらし」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、第3学年及び第4学年「B書くこと」の指導事項、「ア相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。」及び「オ書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけること。」に重点を置いて取り組んでいく。

3年生では、生活の中で見つけたその季節らしさを感じる言葉を使って五・七・五の音で表すという活動を年間を通して設定している。本教材は、身の回りに目を向け、季節に関して見たこと感じたことを言葉で表現する力の育成に適した教材である。また、語彙を豊かにしていくことにもつながっていくと考える。

また、「季節の言葉」として第2学年から第6学年まで、同じ季節でも学年にふさわしいテーマが設定されており、らせん的に繰り返していくことで指導の充実を図ることができる。巡る季節の中で、緩やかに、先人たちのものの見方、感じ方、考え方を取り入れ、自らそれを広げ、深めていくことが期待できるであろう。また、季節を多面的に捉える楽しみを身に付けていくことも合わせて期待できる単元である。

【単元の関連と発展】

2年

春（／夏／秋／冬）が いっぱい

・動植物を中心に、季節を感じるものをカードに書く。

3年

春（／夏／秋／冬）のくらし

・生活の中で季節を感じるものについて、文章を書く。

4年

春（／夏／秋／冬）の楽しみ

・季節を感じる行事について、さまざまな形態の文章で知らせる。

5年

春の空／夏の夜／秋の夕暮れ／冬の朝

・気象に関する言葉を知り、季節の風景を文章で表す。

6年

春のいぶき／夏のさかり／秋深し／冬のおとずれ

・二十四節気を知り、自分たちの住む地域の季節を言葉で伝える。

(2) 児童観

児童は、第2学年の時に教科「日本語」の「わらった！ないた！思い出かるた」の学習で、五・七・五のリズムを意識しながら2年生の思い出かるたを作ったり、作ったかるたで遊んだりする活動に取り組んでいる。また、年間を通して五・七・五で表現する学習を数多く行い、リズムによく慣れて

おり、創作意欲が旺盛である。

本学級では、日常的に日記を書くことに取り組んでいる。曜日ごとのテーマに沿って書くようにしているが、「五・七・五＋解説」の曜日は、特にはりきって取り組んでいる。行事ごとの作文にも文章の最後に五・七・五を取り入れるなど関心が高いといえる。

児童へのアンケートから、五・七・五を作ることは「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた児童は95.9%で、「得意」「まあまあ得意」と答えた児童は79.1%であった。苦手意識をもつ児童には、個別にいていねいな支援をしていく必要がある。

(3) 指導観

本単元では、夏を「五・七・五で表現する」という児童が身近に感じている表現方法を取り入れる。その後、友達と互いの良さを共有する中で自分が作った五・七・五の良さを再確認する。さらには、夏という季節をさまざまな視点で捉えていくことができる。

本単元の指導に当たっては単元の導入で、図画工作で描いた児童の夏休みの絵を提示して夏を連想させ、夏を感じる言葉を見つけさせていく。夏を感じる言葉を見つけるときにタブレットでジャムボードの付箋機能を活用し、数が増えても意欲が続くようにしたい。友達タイムの交流や友達の発表を聞いて自分のタブレットの付箋を増やすときは、○をつけてから言葉を書かせ、学習の足跡が残るようにする。

集めた夏を感じる言葉を見て、五・七・五を作るための言葉の一つ選ばせ、五・七・五を作らせる。その際、作る様子を教師が示しながら、手順を確認していく。できあがった五・七・五に、目・耳(音)・手(触った感じ)などのカードから何を使っているかを考えさせ、友達タイムの視点としたい。

作った五・七・五を友達と見せ合い、認め合う活動を通して自分の作品の良さを改めて感じ取り「作ってよかった。」という満足感を味わわせたい。また、学年末に自分の句集を作成し、友達と読み合ったり家の人に見せたりすることを最終目標にして取り組ませていきたい。

3 単元の目標及び評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。	「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。	積極的に語句の量を増やし、学習課題に沿って、夏らしさを表現した五・七・五を書こうとしている。

4 単元の指導計画（全2時間）

時	主な学習活動	指導及び支援	評価規準
1	○夏を感じる言葉を見つける。 ○友達タイムを通して言葉を増やす。	○タブレットで、ジャムボードの付箋機能を使わせる。 ○友達タイムで増やす言葉については、○をつけさせる。	○語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 【知識・技能】 ○積極的に語句の量を増やそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
2	○夏を感じる言葉を使って五・七・五を作り感想を伝え合う。	○夏を感じる言葉の一つ決めた後、五・七・五を作らせる。 ○作る様子を示しながら、手順を確認していく。 ○友達の五・七・五のよさを伝えさせる。	○「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。 【思考・判断・表現】 ○学習課題に沿って、夏らしさを表現した五・七・五を書こうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 本時の学習（ 2 / 2 ）

（1）目標

○選んだ夏を感じる言葉を使って五・七・五を作ることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

（2）指導の手立て

○ 教師が選んだ夏を感じる言葉から、五・七・五を作る様子を実際に書いて見せながら、手順を視覚的に確認させたい。

○ 教師作成の五・七・五には、どのカード（五感や気持ち等）が使われているか考えさせ、児童の友達タイムの視点としたい。

（3）展開

過程	学習活動	指導と支援（○）・評価（◆）
つ か む	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習を確認する。	○タブレット端末をもとに前時の学習を振り返らせ、本時は五・七・五を作ることを確認させる。
	夏を感じる言葉を使って五・七・五を作ろう。	
考 え る	2 選んだ夏を感じる言葉を使って五・七・五を作る。	○ 選んだ夏を感じる言葉から五・七・五を作る様子を教師が板書することで手順を視覚的に捉えさせていく。出来上がった五・七・五を全員で音読し、どのカード（五感や気持ち）が使われているか考えさせる。 【視覚化】
	カード ・目 ・耳（音） ・鼻 ・口 ・手（触った感じ） ・気持ち（「暑い」「涼しい」など） ・ようすをあらわす言葉 ・たとえ	◆ 夏を感じる言葉を使って五・七・五を作ることができる。 【思考力・判断力・表現力等】（ワークシート） A 自分が選んだ夏を感じる言葉を使って五・七・五を2つ以上作ることができる。 B 夏を感じる言葉を選び、その言葉を使って五・七・五を作ることができる。 ○書き進まない児童には、選んだ夏を感じる言葉を確認させ、教室に掲示している夏休みの絵等を参考にさせる。場合によってはヒントコーナーを活用するよう伝える。
ふ か め る	3 作成した五・七・五を共有する。 (1) 友達タイム	○友達が作った五・七・五と一緒に声に出して読み、具体的に認めるコメントを伝えさせる。
	・友達の五・七・五を声に出して読み、良さを伝える。	○手順が分かりやすいように電子黒板を使って説明する。【視覚化】

ま と め る	【友達タイム】 ① いっしょに読む。 ② せつめいする。(ようすや作った人の気持ち) ③ たしかめる。(五・七・五の 17 音か、えらんだ夏を感じる言葉を使っているか) 友達タイムの視点 ④ つたえる。(作品のよいところ) ⑤ 交たいする。(もう一人の友達の五・七・五について)	○確認したら友達のワークシートに○をつけ、◎になったらサインをさせる。抜け落ちがあれば友達に伝え、一緒に考えさせる。 ○どの五感が使われているか、作った人の気持ちが伝わってくるか等について考え、伝えさせる。(他にも、共感できる、迫力がある、様子を表す言葉でよく分かる、たとえている等) ○友達のアドバイスを取り入れるときは、消さずに変えるところを変えて新しい五・七・五を書くよう伝える。
	(2) 全体で共有する。 ・代表児童の五・七・五を声に出して読み、良さを発表する。 4 学習を振り返る。	○代表児童の作品を全員で声に出して読み、どんな良さがあるか発表させ、全体で共有する。 【共有化】 ○夏を感じる言葉を使って五・七・五を作ることができたか振り返らせる。

6 本時の考察

(主体的に学ぶための手立てについて)

- ・ジャムボードに集めた夏を感じる言葉を見て五・七・五を作るに当たり、まずは言葉の一つ選ばせてから取り組ませた。同じテーマ(言葉)でいくつか書くことでより伝えたい気持ちにぴったりの五・七・五作りへとつながった。「いろいろな五・七・五がつくれてたのしかったです。」という感想が見られた。

(友達タイムについて)

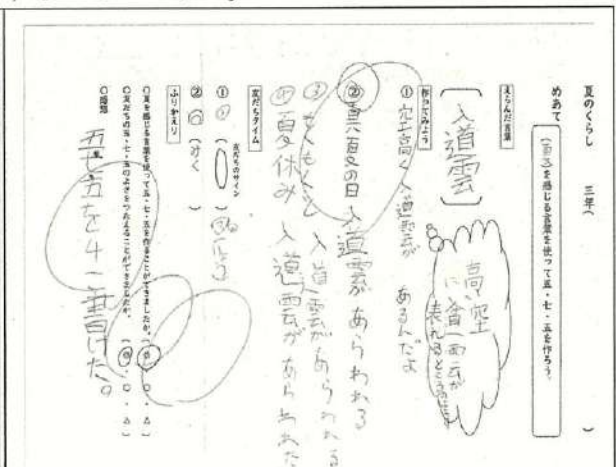
- ・友達と作品を読み合うときは、「よいところを伝える」という視点で行った。国語的な技の確認や助言というよりも、友達の五・七・五を味わったり共感したりといった様子が多く見られた。ねらいをはっきりさせてから友達タイムに入る必要があった。

(授業のUD化について)

- ・最後に代表児童の五・七・五を全体で共有するときは、一部分を()で板書し、どんな言葉が入るかを皆で考えた。その上で、作者の児童に自分はどんな言葉を使ったのか発表させた。全員で声に出して読み、よさについて発表し、全体で共有することができた。

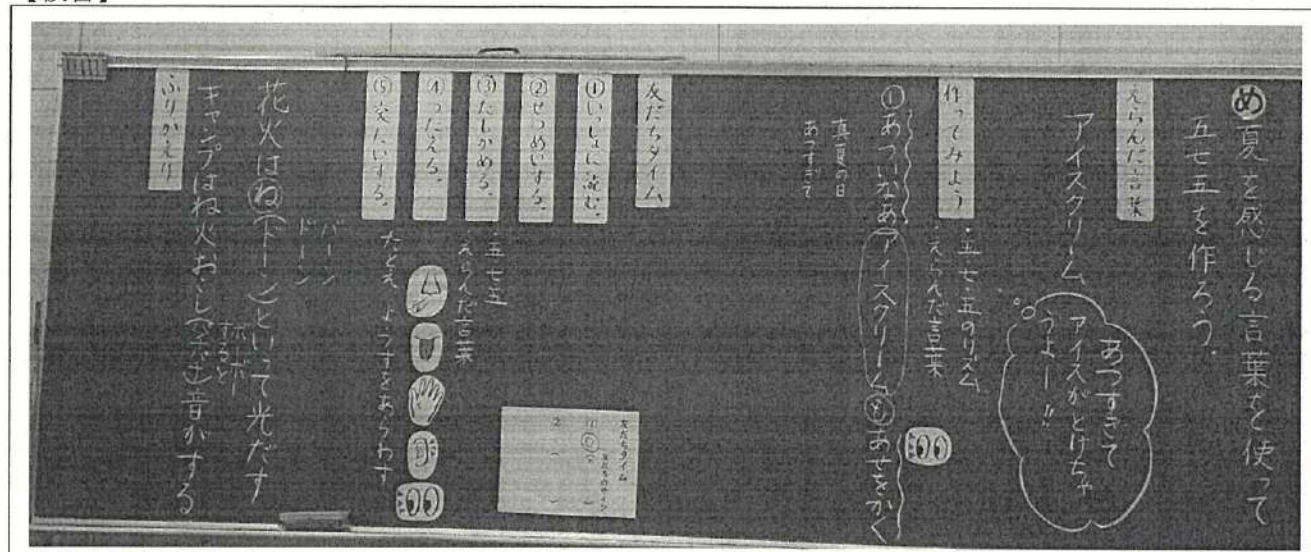


【タブレットで確認】



【「入道雲」でチャレンジ】

【板書】



5 本時の学習 (2 / 2)

(1) 目標

○選んだ夏を感じる言葉を使って五・七・五を作ることができる。

【思考・判断・表現力】

(2) 指導の手立て

- 教師が選んだ夏を感じる言葉から、五・七・五を作る様子を実際に書いて見せながら、手順を視覚的に確認させたい。
- 教師作成の五・七・五には、「五感や気持ち」が使われているか考えさせ、児童の友達タイムの視点としたい。

(3) 展開

過程	学習活動	指導と支援 (○)・評価 (◆)
つかむ	1 前時までの学習を振り返り、本時の学習を確認する。	○タブレットをもとに前時の学習を振り返らせ、本時は五・七・五を作ることを確認させる。
	夏を感じる言葉を使って五・七・五を作ろう。	
考える	2 選んだ夏を感じる言葉を使って五・七・五を作る。	○ 選んだ夏を感じる言葉から五・七・五を作る様子を教師が板書することで手順を視覚的に捉えさせていく。 出来上がった五・七・五を全員で音読し、「五感や気持ち」が使われているか考えさせる。
	五感や気持ち ・目 ・耳 (音) ・鼻 ・舌 ・手 (触った感じ) ・気持ち (「暑い」「楽しい」など)	◆ 夏を感じる言葉を使って五・七・五を作ることができる。【思考・判断・表現】(ワークシート) B 五・七・五を作ることができた児童には、同じ言葉を使って次の五・七・五を作るように伝える。 C 書き進まない児童には、選んだ夏を感じる言葉を確認させ、教室に掲示している夏休みの絵等を参考にさせる。

ふ か め る	3 作成した五・七・五を共有する。 (1)友達タイム ・友達の五・七・五を声に出して読み、良さを伝える。	○ 友達が作った五・七・五を声に出して読み、具体的に認めるコメントを伝えさせる。
ま と め る	【友達タイム】 ⑥ 友達の五・七・五を二人で一緒に音読する。 ⑦ 「五感や気持ち」を参考にしたりしながら、友達の作品の良さや感想を伝える。 ⑧ もう一人の友達の作品についても同様に行う。	
	(2)全体で共有する。 ・代表児童の五・七・五を声に出して読み、良さを発表する。	○ 児童の作品を2つほど選び、全体で共有する。 ○ 全員で声に出して読み、どんな良さがあるか発表させ、全体で共有させる。
	4 学習を振り返る。	○ 夏を感じる言葉を使って五・七・五を作ることができたか振り返らせる。

6 本時の考察

(主体的に学ぶための手立てについて)

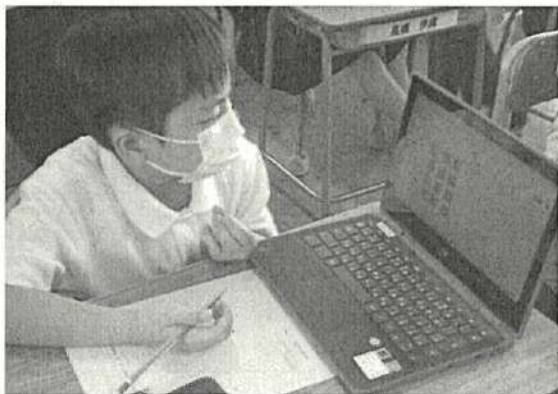
- ・五・七・五を作る前に、五感について全体で確認した。確認することで、さまざまな視点から五・七・五を作る児童の様子が見られた。

(友達タイムについて)

- ・友達の作品のよいところを伝えたり、質問したりすることで、自分の作った五・七・五のよさに気づいたり、五・七・五とそれに込めた思いが合っているか確認することができた。

(授業のUD化について)

- ・選んだ夏を感じる言葉から、五・七・五を作る様子を教師が板書することで、手順を視覚的に捉えさせていくことができた。



【五・七・五を作る様子】



【友達タイムの様子】

7月

夏のくら

め 夏を感じる言葉を使て
五七五を作ろう。

かき氷

かき氷を食べたとき
べろがま赤になつて
びくちしたのさ。

作てみよう
五七五のリズム
えんだ言葉

かき氷 がりがり食べて べろまっ赤
いっけい

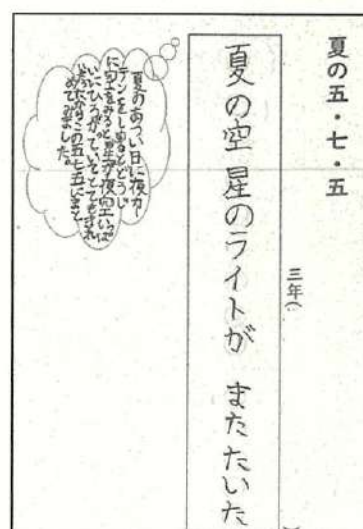
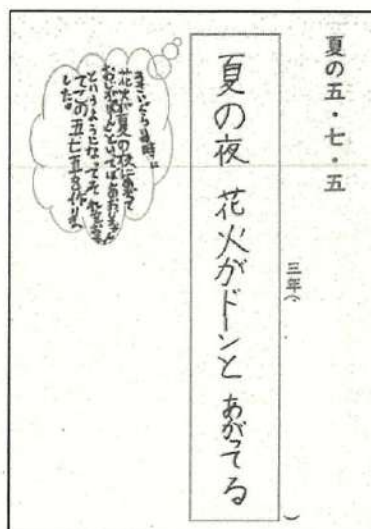
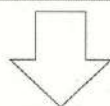
女たちタイム

- ①おに出して読む
五七五のリズム
えんだ言葉
- ②よさを伝える
このに思ひを伝える
- ③文たいする

プールだね
ふかんとういて たのしいな
うきあて
ぶかぶか

夏の夜 花火が下りて あがつてる
そらへ
トーンと

【ワークシート】

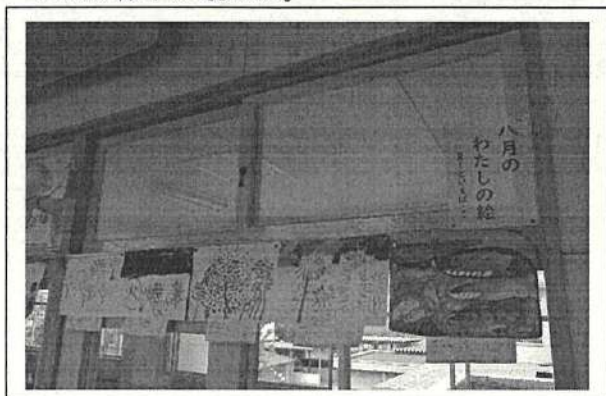


(1) 単元について

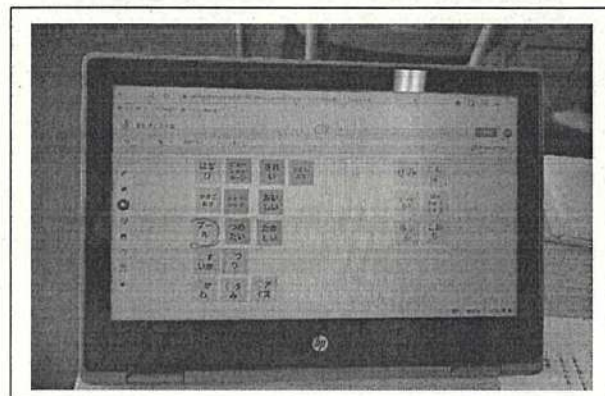
- ・ 図画工作の時間に「わたしの8月の絵」と題して、夏休みを振り返りながら夏と言って思い浮かべるものについて絵に描いた。自分が描いた絵や友達が描いた絵から、言葉で夏を切り取り、夏を感じる言葉を集めた。その際、タブレット端末でジャムボードの付箋機能を活用したことで、児童は意欲的に言葉集めに取り組むことができた。また、友達タイムで交流しながら自分のタブレット端末の付箋を増やしていくことにも意欲的に取り組んでいた。自分で思い浮かべた言葉の付箋と、○を付けた友達の考えの付箋を自分なりに整理して見やすい工夫をしている児童もいた。タブレット端末の活用により、言葉集

めの活動に意欲的に取り組むことができたといえる。

- ・集めた夏を感じる言葉から一つ言葉を選び、その言葉を使って五・七・五を作った。同じ言葉を使っていくつかの五・七・五を作ること、より自分が表現したいものに近づいている児童もいた。また、友達タイムで同じ言葉を選んだ友達と出会い、捉え方の違いに目を向けていた児童もいた。「みんな五・七・五がちがってとてもいいなあと思いました。」と感想を書いている児童がいて、創作も鑑賞も楽しんだ様子が覗えた。



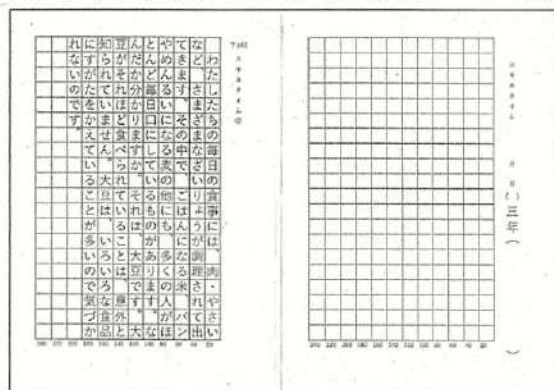
【わたしの8月の絵】



【集めた言葉を自分なりに整理】

(2) 年間を通して

- ・年間を通して季節を感じる言葉集めを行った。春夏秋冬に加え、雨、雪でも行い、クラスで集めた言葉を教室に掲示してきた。友達の季節の捉え方に共感したり新たな発見をしたりしながら、たくさんの言葉を集めてきた。年間を通した言葉集めにより語彙が増え、季節の捉え方が豊かになったといえる。
- ・日記指導を継続して行った。曜日ごとにテーマを設定したり、「ぴったり賞」などのお楽しみを付けたりするなどして取り組ませてきた。水曜日は「五・七・五+解説」のテーマで取り組み、自分の身近な出来事や思いを五・七・五で表していた。
- ・朝のスキルタイムでは、学習した詩や文章を手本として、7分間視写に取り組んできた。2～3回同じ手本を使い、前の字数と比べ、「↑up」「↓down」「→keep」を入れて返却することで児童の励みとなっていた。年間を通して取り組んだことにより「書くことが速くなった」と感じている児童が多くなった。また、ます目を使ったことで、方眼ノートの使い方に慣れるのにも適していた。



【スキルタイムのプリント】



【日記の手引き】

9 今後の課題

- ・友達タイムのねらいをはっきりさせ、児童の実態や学習過程に合わせて効果的に仕組んでいく必要がある。
- ・児童の興味・関心・意欲を高めたり維持したりするための ICT 機器の効果的な活用方法を今後も探していきたい。

第4学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 「夏の楽しみ」
～夏の思い出を表す俳句を作ろう～

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、第3学年及び第4学年「B書くこと」の指導事項「オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること」に重点を置いた学習活動である。

本教材は、春・つゆ・夏・秋・冬の四季折々の天候・植物・生き物・地域の行事や遊びなどの風物詩に触れながら感じた「楽しさ」を俳句に表したり、作った俳句を友達同士で読み合いながら感想を述べ合ったりする活動を通して、児童が、言葉がもつ「よさ」に気づいていくことをねらいとしている。1年間を通して、季節の節目節目に体験した楽しい思い出を振り返りながら、書きたいことを17音という音数の限られた俳句に表す活動に取り組む。

本教材では取材に、思い出が作られたその時の「気持ちや感じたこと」「風景」を残しておくことができるように1人1台端末のカメラ機能やアプリ機能「Jamboard」を使う。Jamboardにそれぞれの季節を感じる言葉やその言葉から連想される言葉を集めたものを「言葉の宝箱」とする。取材してきた事柄を共有する時間では、友達の「言葉の宝箱」の中から新しい言葉や表現の仕方の発見ができ、児童の語彙の量や表現力を豊かにしていくことだろう。

また、「言葉の宝箱」の中に日本の季節感や伝統文化に関する言葉があった時は、それらを紹介しながら日本の伝統文化に親しませることもできる。よって、友達との交流の中で、言葉のもつ「よさ」に気づいたり語彙の量や表現力を豊かにしたりすることに適した教材であると考えられる。

3 単元の目標及び評価規準

【単元の関連と発展】

3年

春（/夏/秋/冬）のくらし

・生活の中で季節を感じるものについて、文章を書く。



4年

春（/夏/秋/冬）の楽しみ

・季節を感じる行事について、さまざまな形態の文章で知らせる。



5年

春の空/夏の夜/秋の夕暮れ/冬の朝

・気象に関する言葉を知り、季節の風景を文章で表す。



春のいぶき/夏のさかり/秋深し/冬のおとずれ

・二十四節気を知り、自分たちの住む地域の季節の言葉で伝える。

(2) 児童観

児童は、第3学年の時に国語科や教科「日本語」の学習において俳句を読んだり、日記で五・七・五を書いたりする活動に取り組んでいる。また、第4学年では「春の楽しみ」「つゆの楽しみ」を学習しており、本単元はそれに続く3つ目の単元である。「春の楽しみ」では五・七・五で表現し、「つゆの楽しみ」は俳句で表現した。

学級では、普段取り組んでいる日記の中でいろいろなテーマで五・七・五を作ったり、日常の出来事を五・七・五で表現し文章で説明したりする活動に取り組んでいる。その中で、課題ではない時でも五・七・五に取り組んだり、スムーズに五・七・五を作ったりすることができる児童が増え、五・七・五のリズムに合わせて表現することには慣れてきた。しかし、スキルタイムで取り組んでいるテーマに沿って言葉集めをしたり、俳句（五・七・五）を作ったりする活動で、その季節に関する言葉が集まりにくかったり、「楽しいな」「うれしいな」など同じ言葉をくり返し使ったりしている児童も多く見られ、自分の思いをいろいろな言葉で表現するなど表現を工夫する力を今後高めていく必要があると考える。

本学級では総合的な学習の時間の学習など他教科でも1人1台端末を日常的に活用していて、タイピング練習や1人1台端末による課題に対しては熱心に取り組むため、扱いに慣れている児童が多い。そのため、「書くこと」に対して苦手意識が強い児童も、何か文章を入力したり検索したりする活動には意欲的に取り組むことができる。そこで1人1台端末を使った学習は児童が意欲的に活動に取り組み、その中で語彙を増やしたり、表現力を広げたりしていくのに効果的だと考える。

(3) 指導観

今回、「夏の楽しみ」をテーマに俳句を作っていく教材であるため、夏休み明けの2学期の始めに学習時期を設定している。児童は夏休みの実体験をもとに学習に取り組めるため、たくさん「夏」に関する言葉が集まると考える。

俳句（五・七・五）は春・つゆ・夏・秋・冬を通して作り、俳句集として学年末に作成することを目標としている。自分の作った俳句の変化に気付いたり、語彙の広がりを感じたりすることで俳句作りの楽しさを味わわせたい。

本単元に入る前に、夏休みの課題として1人1台端末による言葉集めに取り組ませ、体験・経験した後すぐに言葉を記録しておけるようにした。

導入では、夏休みに集めた「言葉の宝箱」を確認しながら、集めた言葉を友達と交流し合う中で、さらに語彙を広げる活動に取り組ませたい。また、夏休みに体験・経験したことを写真に記録している児童もあり、その写真を全体で共有することで、言葉が広がりづらかった児童も言葉を集めやすくする。そのため、1人1台端末は横書きでの表示ではあるが手軽に児童が取り組みやすいため、本時の目的である「俳句を作る」活動を手助けするツールとして活用していきたい。

第2時（本時）では、前時までに集めた「言葉の宝箱」を見ながら俳句を作る活動を行う。その際、Jamboardの付箋の色分け（黄色：夏を感じる言葉、赤：気持ちを表す言葉、水色：その他）機能を使い、夏を感じる言葉が入っているか、楽しさを表現できているかを確認しやすくする。また、友達タイムで友達の作った作品に触れることで、よりよい表現を見つけたり自分の思いをより明確に表したりすることができるようにする。

第3時では、お気に入りの一句を選び清書をし、友達タイムを通して友達の作品の良さを見つけていく活動を行う。その時に、俳句に込めた気持ちをさらにくわしく文章で表すことで「楽しさが表現できているね」など具体的に相手の良さをほめることができるようにする。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。	「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。	積極的に語彙を豊かにし、学習課題に沿って、季節の様子を俳句で表そうとしている。

4 単元の指導計画（全3時間）

時	主な学習活動	指導及び支援	評価規準
1	○夏を感じる言葉を見つける。 ○友達タイムで夏を感じる言葉を増やす。	○1人1台端末のJamboardの付箋機能を使わせる。 ○言葉を整理しやすくするために、付箋の色分けをさせる。	【知・技】 言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 (記述・発言)
2 (本時)	○夏を感じる言葉を使って俳句を作る。 ○友達タイムで作った俳句を友達と共有する。	○自分のJamboardを見ながら俳句を作らせる。 ○夏を感じる言葉が入っているか、夏の楽しさを表現する俳句になっているか確認させる。	【思・判・表】 「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。 (記述・発言)
3	○俳句の清書を書き、感想を伝え合う。 ○単元の振り返りをし、秋の俳句作りに向けて見通しを持つ。	○俳句と俳句に込めた気持ちを清書に書かせることで、読み手が情景をイメージしやすいようにする。	【主体的】 積極的に語彙を豊かにし、学習課題に沿って、季節の様子を俳句で表そうとしている。 (Jamboard・記述)

5 本時の学習（2/3）

(1) 目標

○夏の楽しさを表現する俳句を作ることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 指導の手立て

- 1人1台端末のJamboard(言葉の宝箱)を使って夏を感じる言葉集めを行うことで、自分の俳句に生かせるようにする。
- 友達タイムの時間を十分にとり俳句を見せ合うことで、友達の使った言葉や表現を自分の俳句に生かせるようにする。

(3) 展開

過程	学習活動	指導と支援 (○)・評価 (◆)
つかむ 考える	1 前時の学習を振り返る。	○言葉の宝箱 (Jamboard) を確認して、夏を感じる言葉思い出させる。
	2 夏の写真を見ながら感じる言葉を出し合う。	○夏を感じる写真を黒板に提示して写真に合う言葉を出させることで、俳句を作るイメージをふくらませる。 【視覚化】【共有化】
	3 本時のめあてを知る。	
ふかめる	夏の楽しさを俳句で表そう	
	4 俳句を作る。 【俳句を作る視点】 ・夏を感じる言葉を入れる。 ・楽しさを表現する。	○めあてに沿った活動ができるように、俳句を作る視点を確認する。【焦点化】 ○タブレット内の自分が撮ってきた写真や言葉の宝箱を見ることで、夏の楽しかったことを思い出しやすいようにする。 ○ワークシートの俳句を書く枠を点線で区切ることで、五・七・五の音を意識しながら書くことができるようにする。 ○俳句に込めた気持ちを書く欄を設けることで、俳句の中に夏の楽しさが表現できているかを確認できるようにする。 ○書くことに戸惑っている児童には言葉の宝箱を見ながら一緒に言葉を探すことで俳句を1つでも書くことができるようにする。
	5 友達タイムを行う。 【友達タイムの視点】 ・夏を感じる言葉が入っているか。 ・夏の楽しさを表現する俳句になっているか。 をふわふわ言葉 (ほめ言葉) を使って行う。	○「友達タイムの視点」を伝えることで、友達タイムの意義を明確にする。 ○友達タイムでは、俳句に込めた気持ちも伝え合うことで、互いの俳句の背景をイメージしやすいようにさせる。
まとめる	6 友達タイムを踏まえて書き直したり、句を増やしたりする。	○友達タイムの中で出た言葉を参考にしながら必要であれば自分の気持ちが伝わるように俳句を修正したり、新しい句を作ったりさせる。

		◆夏の楽しさを表現した俳句を作ることができる。 【思考力・判断力・表現力等】(ワークシート) A: 夏を感じる言葉を使い、楽しさを表現した俳句を2つ以上作ることができる。 B: 夏を感じる言葉を使い、楽しさを表現した俳句を作ることができる。 ○手立て: 俳句を書くことに戸惑っている児童には、教師と一緒に言葉の宝箱や教室横の掲示物を見ることで、言葉を探したり言葉を当てはめたりする。
7	全体でいくつかの作品を共有する。	○児童の作品を全体で共有することで、「秋の楽しみ」での表現の工夫につながるようにする。【共有化】
8	本時の振り返りをする。	○ワークシートの評価欄に自己評価させることで活動を振り返らせ、次時への意欲に繋げるようにする。
9	次時の学習内容を知る。	○次時は俳句の清書をするのを伝えることで、活動の見通しを持たせる。

6 本時の考察

(主体的に学ぶための手立てについて)

- ・Jamboard を使って言葉集めを行う際に、一緒に思い出の写真を撮ることでそのときのイメージをより膨らませやすいようにした。
- ・教室横に季節ごとに集めた言葉(児童の言葉の宝箱から選出)を掲示し、休み時間などにも自由に増やしていけるようにした。また、俳句に使える技法に自分たちで名前を付け、さらに工夫した表現の手助けになるように教室に掲示をした。

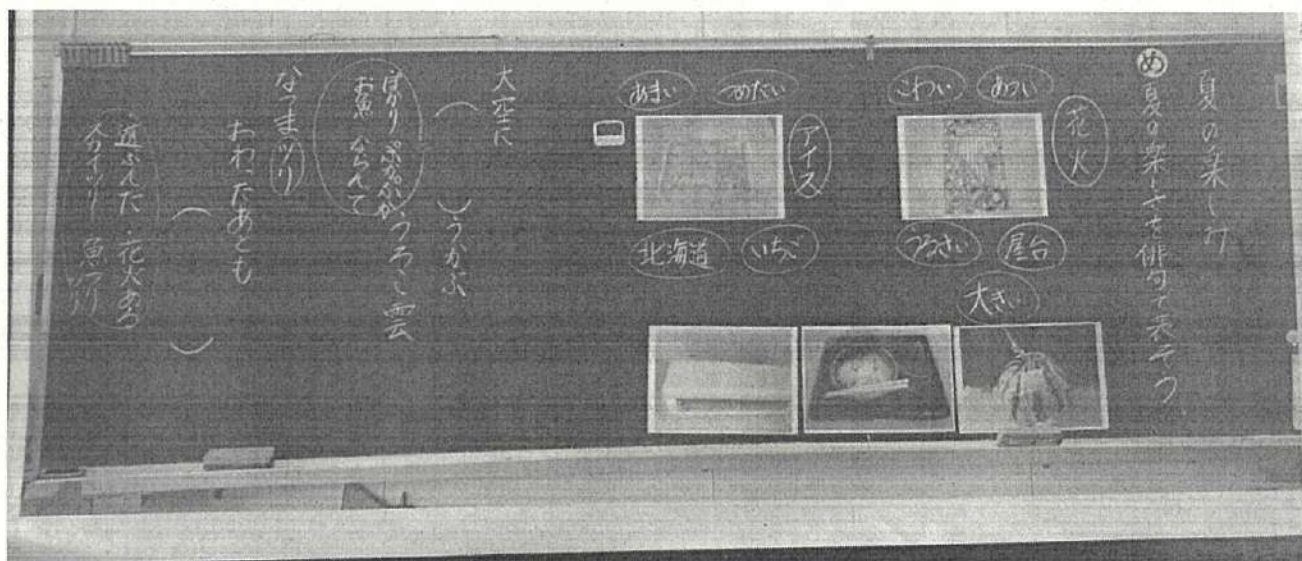
(友達タイムについて)

- ・活動の前に友達タイムの視点を提示することで、友達タイムの目的を明確にした。また、ふわふわ言葉(ほめ言葉)を使うことを意識させることで、自分の作った俳句に自信が持てるようにした。

(授業のUD化について)

- ・導入で児童が撮影した写真を使ってイメージを膨らませ際に出た言葉から、教師が俳句を作る(モデル動作)ことで児童が見通しをもって活動に取り組むことができるようにした。

【板書】



5 本時の学習 (2 / 3)

(1) 目標

○夏の楽しさを表現する俳句を作ることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 指導の手立て

○ 1人1台端末の Jamboard (言葉の宝箱) を使って夏を感じる言葉集めを行うことで、自分の俳句に生かせるようにする。

○ 友達タイムの時間を十分にとり俳句を見せ合うことで、友達の使った言葉や表現を自分の俳句に生かせるようにする。

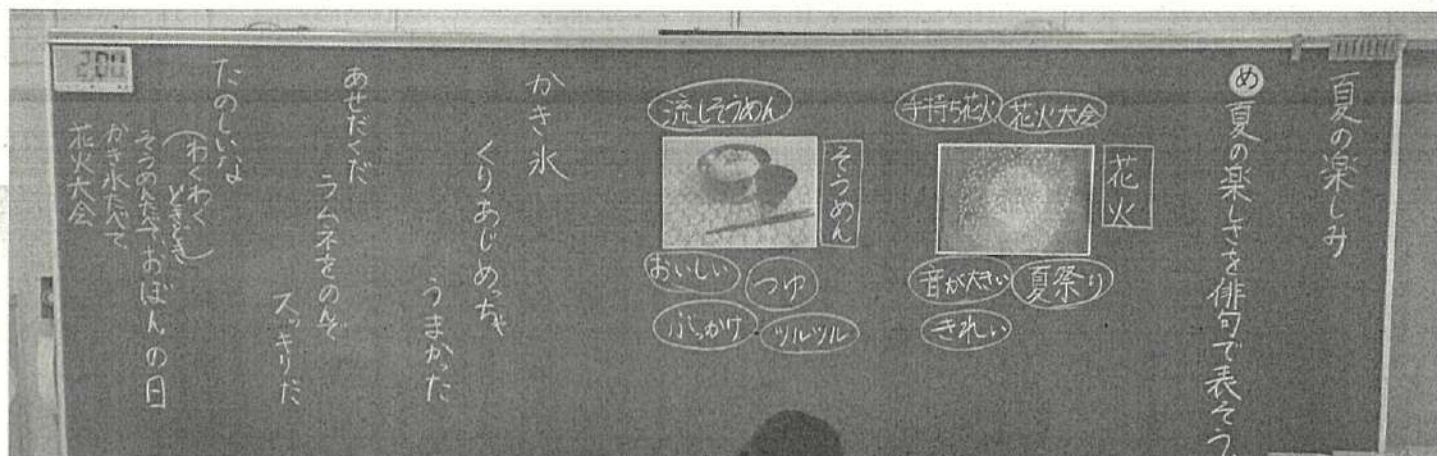
(3) 展開

過程	学習活動	指導と支援 (○)・評価 (◆)
つかむ	1 前時の学習を振り返る。	○言葉の宝箱 (Jamboard) を確認して、夏を感じる言葉を思い出させる。
	2 夏の写真を見て、そこから感じられる言葉を出し合う。	○夏を感じる写真を黒板に提示して写真に合う言葉を出させることで、俳句を作るイメージをふくらませる。 【視覚化】【共有化】
	3 本時のめあてを知る。	
考える	夏の楽しさを俳句で表そう。	
	4 俳句を作る。 【俳句を作る視点】 ・夏を感じる言葉を入れる。 ・楽しさを表現する。	○めあてに沿った活動ができるように、俳句を作る視点を確認する。【焦点化】 ○タブレット内の自分が撮ってきた写真や言葉の宝箱を見ることで、夏の楽しかったことを思い出しやすいようにする。 ○ワークシートの俳句を書く枠を点線で区切ることで、五・七・五の音を意識しながら書くことができるようにする。 ○俳句に込めた気持ちを書く欄を設けることで、俳句の中に夏の楽しみが表現できているかを確認できるようにする。 ○書くことに戸惑っている児童には言葉の宝箱を見ながら一

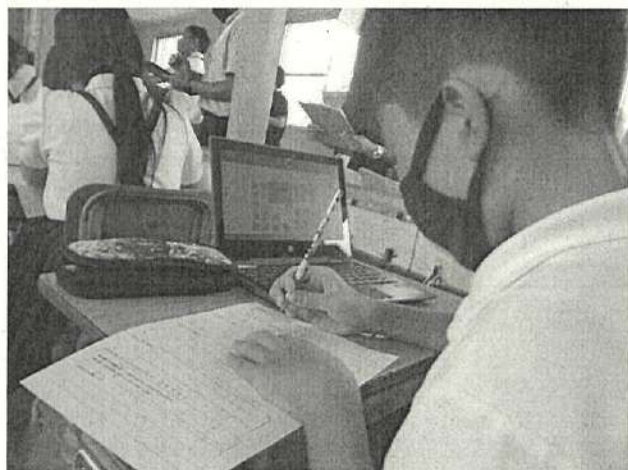
- ・友達タイムのなかでたくさん交流し読み合うことで、認め合いによって自分の俳句への自信につながり、友達の俳句を読むことで自分の俳句に生かすことができた。
- ・友達タイムの視点をもっと明確にしアドバイスの仕方を提示すると、もっと有意義な友達タイムにできた。

(授業のUD化について)

- ・一人一台端末の Jamboard に集めた言葉を色分け(赤・・・気持ち、黄・・・季節を感じる言葉、青・・・その他)をすることで、見やすくまとめることができ、自分の言葉の宝箱に足りない色を確認することができた。
- ・電子黒板に俳句を書くこつや友達タイムの目的を提示することで、スムーズに活動することができた。
- ・本時までの記録として「春・つゆ」の言葉集めと俳句を書くこつを教室横に掲示することで、児童が困ったときの手助けになった。
- ・電子黒板で提示する物と黒板に板書する内容は今後の課題である。



【板書】



【一人一台端末を使った活動】



【友達タイム】

7 本単元で用いたワークシート・資料

【ワークシート】

スキルタイム (6)番 名前() ①「運動会」で五・七・五をつくりましょう。 ※見た人が「がんばるぞ」「楽しんだ」と思えるような五・七・五を書こう。		リレーではみんなで協力 さいごまで 同様に回して リレーの選手になたんに回して		つな引きは 気合を入れて がんばるぞ 同様に回して 四年生に向けて		運動会 ぜったいに勝つ 負けられない 同様に回して 全校に向けて		同様に回して 四年生に向けて		9月 5日(月) ふり返り ○ △ わたしは、うまく五七五がつくれたけど、次は名前止めのなともやってみたいと思います。	
スキルタイム (7)番 名前(濱川 ちなみ) ①「楽しい」様子がわかる言葉を見つけましょう。 ○ ハッピー ○ 最高ノ ○ 心おどる ○ 心はずむ ○ ランラン ○ ワクワク ○ ビノリノリ ②「さいきん楽しかったこと」で五・七・五をつくりましょう。 ※「楽しい」という言葉を使わずに		たきまつて お兄ちゃんに勝って ハッピーだ ヤムレ (心) こはる		ケーセンで たくさん取れて 最高だ		お父さんに 頭のマッサージ 最高だ		9月 11日(月) ふり返り ○ △ 五七五をもっと上手に作れるように、がんばりたいです。			

8 研究の成果

(1) 単元について

- ・本単元について、俳句作りをするための「春・つゆ・夏・秋・冬」全ての言葉集めを一人一台端末のJambordにまとめることで、自分の集めた言葉がどんどん増えていくことへの達成感を感じることができ俳句作りのヒントになったことが良かったと考える。
- ・一人一台端末を使うことで、児童の学習への意欲を高めるだけでなく、休み時間や家庭など学習時間外でも言葉集めを行うことができたことは有効的だった。また、Jambordにまとめるときに言葉を色分け(赤…気持ち、黄…季節を感じる言葉、青…その他)をすることで、自分に足りない言葉

を視覚的に捉えることができた。

(2) 年間を通して

- ・年間を通して、週に1回のスキルタイムで詩や俳句感想文の視写に取り組んだ。毎回視写する時間や書けた文字数を記録し、書くスピードを意識させた。だんだん書くことのできる文字数がふえていく。
- ・一人一台端末のJamboardに「言葉の宝箱」という「春・つゆ・夏・秋・冬」それぞれの季節を感じる言葉などを集めるワークシートを作成し、児童はそこに自分で集めた言葉や学習中に友達から教えてもらった言葉など色分けをしてまとめた。言葉の宝箱がいっぱいになっていく達成感を感じつつ、語彙を増やすことを図った。
- ・年間を通して、連絡帳に日記や条件付きの文章を書かせ新聞作りに取り組むことで、条件に合った文章を書く力や、テーマに沿って文章を書く力が身に付いた。

春休み	3～4月	ひな祭り	たけのこ	さくらんぼ	ランドセル	ピンク	入学式
桜餅	つくし	ミツバチ	てんとう虫	たんぼぼ	菜の花	モグラ	少し長いシャツ
春							
ちょうちん	こいのぼり	新学期	三色団子	春の大角巻	卒業式	花見	チューリップ
少し暑い	良い匂い	もうすぐ学校	風通しがいい	春休みだ～	お花がたくさんある	つくしを取ろう	卒業式だ

バラ	雨	かさ	みずたまり	なめくじ	てるてるぼうず	台風	びちゃびちゃ	暑い
ザーザー	あじさい	がたつむり	かえる	おりたあみがさ	虹色	かっぱ	しつけ	どしゃくずれ
ゴロゴロ	ぼつぼつ	かみなりこわいな	雪が多い	しとしと	ビチビチ	つゆ	つなみ	6月
暑いな～	楽しくない	まだかな～	川の流れが早いな～	だるい	本の置っぱが落ちる	窓の外	ながくつ	かみなり
早く家に帰りたいな～	かさ持ってきてない!	バラバラしてるな～	早く夏になってほしいな～	ひま	家で遊ぶ	せんたくものがはせない	家の中	服がすぐぬれる

セミ	バーベキュー	カブトムシ	クワガタ	はち	7～8月	虫	フール	パイナップル
水遊び	夏休み	せんぶき	はんそで	冷たい水	夏祭り	トマト	スイカ(スイカわり)	山笠
そうめん	水着	ミンミン	ブンブン	かき氷	夏	ラムネ	うきわ	ひまわり
カブトムシがいる	すずしい	暑いな	日焼けしたな～	じわじわ	お肉が美味しいな～	むしあつ	まだかな	アイス
日向がたかくて	花火面白	汗をかく	むしむし	まぶしい	夏休みだ	冷たい	元気	トマトが甘い

秋祭り	カエデ	もみじ	いも	はぎ	まつたけ	オレンジ	秋服	ハロウィン
新米	すすき	月	くり	運動の秋	お月見	参観日	衣替え	修学旅行
鈴虫	スポーツの日	食欲の秋	はぜ	秋	芸術の秋	イチヨウ	モンブラン	野菜
団子が美味しい	参観日が楽しみ	たくさんいちょうがある	少しはだ寒い	かぜ	雨	長袖	団子	参観日
運動会が楽しみ	秋の風をもうそろそろ、感じるかな	風が強くなっている	自然のいい香り	ちょうちんが多い	ハロウィンが楽しみ	修学旅行が楽しみ	お花	アイス

お年玉	クリスマス	クリスマス	パレンティン	獅子舞	カウントダウン	もち	おそ	うに
誕生日会	大掃除	大みそか	せつぶん	冬休み	サンタ	雪	冬	
雪合戦	みかん	年越しそば	プレゼント	冬	おせち	クリスマスケーキ	初夢	
寒い	冬休みの宿題早く終わらせよう	大掃除嫌だなあ	クリスマスケーキを頂きたいなあ	カウントダウンで寒い	雪合戦楽しい	お年玉楽しみ	誕生日ケーキたのしみだなあ	
クリスマスプレゼント楽しみドキドキ	初夢見れるかなあ	カウントダウンまで起きれるかなあ	パレンティンが大好き	洋服が冬になるから楽しみ	雪積もると良いな	雪だるまをたくさん作ろう	年越しそばを食べるの楽しみ	

【言葉の宝箱】

9 今後の課題

- ・今回は「夏を感じる言葉」と「夏の楽しみが表現できているか」に視点を置いて研究を行ったので「楽しい」や「うれしい」などの言葉を入れて俳句を作る児童も少なくなかった。今後は、「楽しい」や「うれしい」などの言葉を使わずに楽しさやうれしさを表現できるように指導していきたい。そのた

めには、気持ちを表す言葉（主に形容詞、形容動詞）の広がりを意識した指導を行っていく必要があると考える。

- ・今回の研究では言葉集めに Jamboard を使用した。今後は Jamboard で俳句を作ったり友達と共有したりしてよりよい表現ができる児童を育てていきたい。また、自分の俳句を Jamboard に残していき、学年が変わっても見直したり自分の成長を感じられたりできるようにして、さらに俳句を作ることに楽しみを見出させていきたい。

